

## 令和3年度佐潟周辺における植生調査等について

## 1. 佐潟周辺（御手洗潟を含む）における希少植物の調査について

(1) 調査日 5/29、6/15、6/25、8/8、9/14、11/19 (計6回)

(2) 確認された希少種

- ①ヤナギトラノオ *Lysimachia thyrsoiflora*：自然生態観察園、野鳥観察舎前、上潟全域で確認。上潟の一部で外来種であるシンワスレナグサ *Myosotis scorpioides* が繁茂している場所があり、今後生育に影響があると判断された場合はシンワスレナグサの駆除も検討する必要があるかもしれない。
- ②サデクサ *Persicaria maackiana*：湿地センター周辺、自然生態観察園で確認。生育量は若干少なめに感じたが、問題ない範囲だと思われる。環境変化と併せ、個体数の増減を今後も確認する必要がある。
- ③シラスゲ *Carex alopecuroides*：下潟北側の道路沿いで確認。一昨年前より最も繁茂していた道路際は土壌が削られて減少しているが、林内や潟側に数多く個体が残るため、個体数自体は問題ないと思われる。今後も個体数の増減を確認していきたい。
- ④スジヌマハリイ *Eleocharis equisetiformis*：上潟の大清水付近で確認。個体数は維持されているが、遷移が進行し、ヨシなどと共に生えているため、環境変化により減少する可能性があり、注視していきたい。
- ⑤シロバナサクラタデ *Persicaria japonica* var. *japonica*：自然生態観察園で多く確認。個体数は安定している。
- ⑥ハンゲショウ *Saururus chinensis*：自然生態観察園、下潟南西側の杉林前の湿地で確認。個体数は安定している。
- ⑦オニバス *Euryale ferox*：下潟南側で数個体発芽を確認。直径5 cm程度の個体までは確認できたがそれ以上大きくなる個体は無かった。アオコの増加による日照不足、アメリカザリガニやミシシッピアカミミガメ等による食害、水位変動の減少等による攪乱の減少などが減少の要因と考えられる。
- ⑧ミズアオイ *Monochoria korsakowii*：一昨年前まで「さかたん」で稲を植えている水田やその周囲の「ど」で数多く確認できていたが、コロナ禍で活動が中止され、水田の攪乱が起きなくなったため現在はほぼ確認できない。今年度は「佐潟ハス復活プロジェクト」で水田を利用したため、土壌攪乱が起き、来年度は復活が期待できる。

(3) その他

1年生水生植物であるオニバスやミズアオイの生育については、土壌攪乱による埋土種子の露出があるかどうかが出現に大きく影響する。2018年以降中止されている水位管理は潟の水質改善や土壌攪乱、遷移の進行を食い止めるなどの作用に大きく寄与していたと思われるため、再開が望まれる（別紙「佐潟における水位管理とハスの衰退について」参照）。



ヤナギトラノオ



オニバス（発芽苗）

## 2. 佐潟自然生態観察園の整備により出現した希少種の調査について

(1) 調査日 5/29、6/15、8/8、9/14、11/19 (計5回)

(2) 調査内容

自然生態観察園の整備したエリアはエコトーンと呼んでおり、水位がなだらかに変化する場所を創出している。この場所には現在は佐潟で絶滅したが、栽培個体が維持されているデンジソウや希少種のヤナギトラノオ、ミズアオイなどを植栽している。

(3) 調査結果

今年度も上述の植物は確認できたが、十分な管理ができず個体数が減少し、ヨシなどが増えてしまったため、除草作業を行った他、ヒメガマの駆除を行った。水深は水生植物を管理するにはまだ深いため、佐潟の底泥をもっと搬入する他、ヨシなどの植物の除去や土壌の攪拌などを実施し、多くの希少種が見られる場所を今後は創出していきたい。



エコトーンの様子

## 3. ハスの生育調査について

(1) 調査日 5/12、5/31、5/29、6/15、6/25、8/8、8/9、9/14、11/19、3/27 (計10回)

(2) 調査内容

2019年より下潟でハスが確認できない状況が続いているが、にいがた命のつながりプラン（新潟市生物多様性地域計画）でハスのある佐潟が望まれている他、多くの地元の方々からもハスの復活を望む声が聞こえている。それらを受け、佐潟と歩む赤塚の会が今年度より「ハス復活プロジェクト」を立ち上げ栽培活動を行っている他、地元の「新潟市立赤塚小学校」からも協力を得てハス復活活動を開始した（別途、佐潟と歩む赤塚の会より報告）。これらのハス復活プロジェクトに関する技術指導と佐潟でのハスの生育確認を実施する他、ハスが衰退した要因の調査を今年度は行った。

(3) 調査結果

今年度も下潟ではハスの生育が確認できなかったが、上潟や御手洗潟ではハスは例年通り確認できた。1(3)での記述と同様、ハスの発芽においても佐潟の水位管理は影響を与えられ、水位管理を実施していたころの管理サイクル（3月ごろより水位を上げ、5月より水位を下げる）を実施することにより種子発芽が促進される他、汚れた水を排出して水を入れ替える効果もあったのではないかと考えられた。



植栽したハスの初開花



さかたん田んぼを埋め尽くしたハス



赤塚小学校観察会



育てたレンコンの収穫